



特集 南米次世代育成推進事業	P 2・3
事業報告 日本文化体験・交流会 ほか	P 4～6
わーるど Worldなんしよん あるぶ アルブ 京子さん	な～なう おかやまじん たよ Now?～岡山人からの便り～ P 7
ぼらんていあかつどう ボランティア活動しています! すかむ あばさー スカム アバサラー (ヨック)さん	P 8
つく 作ってみよう!世界のレシピ ばれーにき バレーニキ (ウクライナ)	せかい れしぴ P 8
JICA寄稿 延原 理衣さん	P 9
れいわ 令和8年度語学講座	ねんど ごがくこうざ P 10

おかやま 国際交流



岡山城の前でかぶととよろいを身につけました



伊原木知事へ表敬訪問

井原市で弓道体験



令和7年度「南米次世代育成推進事業」

コロナ禍により5年間中断していたこの事業を岡山県から委託を受け実施しました。本事業の目的は、南米の県人会から選出された次世代ビジネスリーダー候補生が県内企業や大学で研修を受け、技術の習得や県民との交流を通じて、岡山県と南米との友好関係を深めることです。

今回は南米ブラジルから佐藤 ナジア 直美さん、三浦 ブルナ 理絵さんの2名を迎えました。岡山県民がブラジルに移住して115周年を迎える節目の年でもあり、佐藤さんは日系3世、三浦さんは日系4世で、岡山にルーツがあり、2人の研修期間は9月17日から12月19日の約3か月でした。(次ページへ続く)



佐藤 ナジア 直美さん

私の出身地はサンパウロです。サンパウロはブラジルで最も人口が多く、経済的にも非常に重要な都市で、国内外から多くの人々が集まっています。また、ブラジル最大規模の日系コミュニティもあり、さまざまな文化の人々が共に暮らしています。



三浦 ブルナ 理絵さん

私の出身地はパラナ州にあるロンドリーナです。ロンドリーナという名前は「小さなロンドン」を意味し、イギリスの企業によってこの地域は開発されました。作物がよく育つ赤い土壌のおかげでコーヒー栽培が発展し、多くの日本人がこの地へ移住し、街づくりに大きく貢献しました。

研修の主な内容

①日本語研修(10日間)

日本語研修では、ほかの受講生と一緒に授業を受ける機会があり、日本語だけでなく、日本の文化や生活習慣についても学びました。岡山国際交流センター周辺の商店街を散策しながら、実践的な日本語に触れる機会もありました。

②専門研修(約2か月)

佐藤さんは株式会社ビザビにて3つの部署(クリエイティブ・プランニング局、地方総政局、ヒューマンリソース局)で研修を行いました。社内でのコミュニケーションは日本語で行われたため、はじめは業界用語を理解するのに苦労したようですが、ウェブサイトのデザインや岡山県へのブラジル人観光客の集客提案など、さまざまな業務に積極的に取り組みました。さらに、「岡山コーヒーフェスティバル2025」や「第14回グローバルRCE会議」などのイベントに参加しました。この研修を通して、広告に関する専門知識を学ぶとともに、日本の企業で働く際の考え方についても理解を深めました。

三浦さんは岡山大学大学院自然科学研究科において、野上教授のもとで情報セキュリティ分野の研究に取り組みました。例えば、サイバーセキュリティに関するソフトウェアを開発している企業の調査や、エンドユーザー(ソフトを使う人)向けのサイバーセキュリティ予防策の調査、さらにフィッシングウェブサイト(偽のウェブサイト)のデータベースに関する研究など、多岐にわたります。将来ブラジルでキャリアに生かせる知識と経験を得ました。

③県内視察(ルーツを探る)

県内視察では、それぞれのルーツをたどる貴重な時間となりました。佐藤さんは祖父の出身地である井原市を訪れ、「祖父が生まれ育った場所に立つことができ、一生忘れられない経験になりました」と語っていました。

三浦さんは曾祖父母の出身地である美作市を訪問し、親戚の方と初めて対面しました。その出会いは、まるで映画のワンシーンのようで、双方にとって感動的なひとときとなりました。

④県民との交流

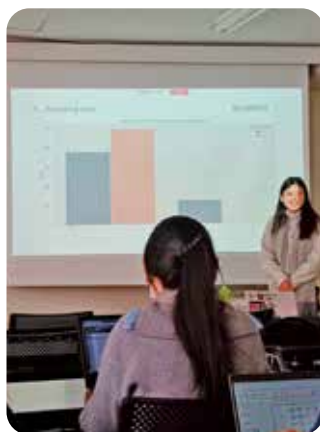
岡山市立岡山後楽館高等学校で高校1年生を対象に、ブラジルについてのプレゼンテーションを行ったほか、岡山県国際交流協会主催のイベント(ワールドエクササイズ、留学生と県民との交流会、日本文化体験)にも参加し県民との交流を深めました。



①岡山国際交流センターの前で



②研修先の株式会社ビザビにて



②研修先の岡山大学大学院にて



③奈義現代美術館にて



④「留学生と県民との交流会」でブラジルについて発表する2人

代育成推進事業」



⑤ 県知事への表敬訪問（10月6日）および修了式（12月16日）

10月6日には伊原木知事への表敬訪問が行われ、佐藤さんと三浦さんは「ブラジルと日本をつなぐ懸け橋になりたい」と今後の抱負を述べました。12月16日の修了式では、研修を通して学んだことや、日系ブラジル人としての思いをそれぞれの言葉で発表し、約3か月間の研修を締めくくりました。



⑤ 修了式で修了証書をいただきました

【研修を通しての感想（研修員より）】

佐藤さん: 岡山での生活を通して地域の魅力と人の温かさを感じ、祖父の故郷・井原市を訪れたことで自分のルーツと日本、ブラジルの深い絆を実感しました。

また、学生との交流を通じてブラジルや日系人の歴史を伝え、次世代に国や文化を超えたつながりの大切さを感じてもらえた経験を、今後も大切にしていきたいと考えています。

三浦さん: この研修は、32年前に母が参加した同じプログラムへの思いを受け継ぎ、日本とのつながりを再確認する貴重な機会となりました。岡山での日本語学習や研究、文化体験、ホームステイ、学生との交流を通じて深い学びと絆を得た経験を、今後は次世代の日系人に伝えていきたいと考えています。

岡山での3か月間の研修を終えた佐藤さんと三浦さんが、多様性を力に変えてきたブラジル社会の中から、スポーツ、冒険、食の分野で世界に影響を与える3人の女性を紹介しします。

多様性という、ブラジルの力

ブラジルは、歴史、文化、ルーツ、肌の色が重なり合う多様性に満ちた国です。個人や単体では決して十分ではない環境や状態でも、多様な人や物を創造力や即興力で組み合わせることによって前進してきました。この要素こそが「ブラジルらしさ」であり私たちの最大の強さだと感じます。

「ブラジルらしさ」を体現する女性たち

① マルタ・ヴィエイラ・ダ・シルバ — サッカー選手 —

マルタ・ヴィエイラ・ダ・シルバ氏は、ブラジル北東部アラゴアス州の内陸で、父親のいない非常に厳しい環境の中で育ちました。土のグラウンドから世界のスタジアムへと進み、FIFA最優秀選手に6度選ばれ、ワールドカップ史上最多得点を記録しました。女子サッカーが長く抑圧されてきたブラジルで、彼女は不平等を受け入れず、男女同一賃金や他者に対する尊重の重要性、少女たちの未来について声を上げ続けました。

② タマラ・クリンク — 海洋冒険家 —

タマラ・クリンク氏にとってのフィールドは、陸ではなく海です。24歳で小型ヨットによる大西洋単独横断を成功させ、27歳でヨットによる単独での北極越冬を成し遂げました。彼女の航海はただの冒険ではなく、気候変動や氷の融解について考えるきっかけを社会に投げかけています。恐れや孤独を、自分の経験としての話や大事な学びに変えた人です。

③ 白石 テルマ (テルマ・シライシ) — シェフ —

白石 テルマ氏は日系ブラジル人で、サンパウロのレストラン「Aizomê」のオーナーシェフとして活躍しています。在ブラジル日本総領事館の公邸料理長を務め、日本政府から「日本食・食文化普及の親善大使」の称号を授与されました。ブラジルの食材と日本料理の調理法を融合させることで二つの国を結びつけています。

物語は、次の世代へ

現在 私たちの世代は、過去から何を受け取り、何を次の世代へと手渡していくのかを問われています。約3か月の「南米次世代育成推進事業」を通してさまざまな人々と出会ったことで、私たちは日系ブラジル人であることに改めて誇りを持ち、友情とは「ともに成長することを選ぶ関係」であると学びました。私たちが岡山で学んだ経験を伝えることで、次の世代を導く小さな光となることを願っています。

日本文化紹介事業 日本文化体験・交流会 Japanese Cultural Experience & Exchange Party

令和7年12月14日(日)

共催：一般社団法人 大学女性協会 岡山支部

水引講師：赤山 賀与子 氏（日本文化紹介ボランティア）
上生菓子講師：三宅 弘祐 氏（(有) 浦志満本舗）

今回は外部から専門家を招き、新年を迎える時期にふさわしくめでたいものをテーマに、『自分で作る、試す、使う』実践的な日本文化体験ワークショップを行いました。

三部構成で、第一部は水引創作体験。

水引の基本「あわじ結び」を学び、1本取りから2本取りへと難易度を上げ、繰り返し練習しました。あわじ結びで和菓子を食す際の黒文字を飾り、ブックマーカー（栞）も作りました。参加者に内緒の“講師 Magic”を少しだけ使って、最後には日常生活で使える素敵な作品にでき上がりました。



黒文字を飾る

テーブルを回ってあわじ結びの指導中



第二部は、上生菓子創作にチャレンジです。

季節や自然を表現する上生菓子は外国人にとって未知のもの。今回はプロの職人から直接学べることもあり、始まる前からみな興味津々です。講師の手の動きを見逃さないよう集中し、自身の素手の感触を頼りに力を加減しながら繊細な作業に取り組み、各々の「寒牡丹」と「鶴」が出来上がりました。



出来上がり作品(例)



講師の手元に注目する参加者たち

第三部は、お待ちかね、「実食〜!」…のはずでした。

実食会場の和室は、講師たちのアイデアで飾りつけられ、日本文化の味わいを倍増させています。

「手元に抹茶が届いた人から順にどうぞ」と、黒文字を使って和菓子を楽しみ、自由に歓談し交流するよう声をかけますが、いざ実食となっても全員なかなか和菓子に手を付けません。理由を聞くと「きれいだから、もったいなくて食べられない〜」「家族(友人)に食べさせてあげたい」といった声が多数聞かれました。どうやら参加者にとって、親しい誰かと思いを共有したい日本文化体験の1日になったようです。



参加者それぞれの個性があふれる「寒牡丹」



インスタ映えを狙った写真コーナー



閉会 参加者みんなでポーズ

留学生等による国際理解学習支援プログラム

県内在住の留学生が1日講師となって小学校を訪れ、講師の出身地について学んだり、講師提案のゲームで遊んだりして、国際交流を行いました。今年度は8つの小学校で開催しました。

令和7年

- 9月3日(水) 倉敷市立川辺小学校
- 9月10日(水) 倉敷市立中島小学校
- 9月18日(木) 高梁市立有漢学園
- 10月6日(月) 鏡野町立奥津小学校

- 11月20日(木) 久米南町立弓削小学校
- 11月25日(火) 勝央町立勝央北小学校
- 12月18日(木) 倉敷市立旭丘小学校

令和8年

- 1月26日(月) 高梁市立巨瀬小学校

●令和7年9月10日(水) 倉敷市立中島小学校

講師：フィリピン、ベトナム、ミャンマー 計3名 学年：4年生

ベトナム出身の講師が、伝統服のアオザイに着替えて文化紹介を行いました。講師出身地のフエ市では、伝統料理にたくさんのハーブやスパイスを使うと聞いて、児童たちからは「おいしそう!」「食べてみたい!」といった歓声が上がりました。

給食交流では、児童たちが講師の給食を準備し、一緒に日本の給食を楽しみました。フィリピンでは、小学校は朝6時に始まり昼前に終わるので給食がないと知り、児童たちは日本の小学校との違いにとても驚いていました。



華やかで見た目も美しい伝統料理の数々を紹介



給食交流の風景。「先生の牛乳のふた、開けてあげるね!」

●令和7年10月6日(月) 鏡野町立奥津小学校

講師：ペルー、モロッコ 計2名 学年：3・4年生

ペルー出身の講師は、母語のスペイン語について紹介しました。「パン」や「メロン」といった、馴染みのある言葉がスペイン語だったと知ると、児童たちから驚きの声が上がりました。日本語とスペイン語で早口ことばにも挑戦しました。日本語だとスラスラと言えても、スペイン語になると、とたんに舌がもつれて苦戦! まずは講師の後についてゆっくり発音し、徐々にスピードを上げてスペイン語の語感を味わいました。

遊びの時間は、モロッコ版椅子取りゲームを行いました。椅子を一行に並べるところが日本と違って、いつもの椅子取りゲームが新鮮な遊びに変わりました。



スペイン語の早口ことばを紹介するペルー出身の講師



モロッコ版椅子取りゲームで盛り上がる児童たち

留学生と県民との交流会

令和7年12月13日(土)

講師：県内在住の留学生、協会ボランティア、岡山県から招へいされたブラジル出身の研修員 計9名

幼児からお年寄りまで幅広い層の県民やさまざまな国の在住外国人が集い、留学生等と県民が交流するイベントを開催しました。

スリランカ、タイ、ベトナム、ペルー、ミャンマー出身の留学生やボランティアが講師を務め、各国のあいさつからはスタート。講師は母国の伝統的な習慣や観光地、料理などを紹介し、参加者に驚きや新鮮な視点を与えました。

さらに、岡山県が招へいした2名のブラジル出身の研修員は、日系ブラジル移民である自身のルーツやブラジルの多様な文化について語ったり、故郷で撮影した映像を流しながら出身地の様子を紹介したりしました。

グループトークやフリートークの時間では、参加者は講師と活発に交流を行い、和気あいあいとした雰囲気のなか、外国の文化に触れ理解を深めました。

講師や参加者は「とても楽しかった」「また参加したい」と、笑顔いっぱいの空間となりました。文化の多様性を尊重し、友好関係を築く貴重な機会となりました。



民族衣装で文化説明を行う講師



盛り上がるグループトーク



最後にみんなで記念撮影

令和7年度「国際理解学習プラン講師派遣事業」実施報告

国際理解、多文化共生、国際協力・貢献活動を行うNGOが講師となり、団体の活動に関連する学習プランを教育現場で実践し、児童・生徒の国際理解や多文化共生への理解の促進を図ることを目的とした事業です。

今年度は、6団体のNGOが、応募のあった8校(小学校・高等学校・高等支援学校・高等専門学校)でプランを実施しました。高等支援学校や高等専門学校からの初応募もあり、在住外国人の増加に伴い、教育現場での多文化共生の必要性がますます高まっていることを実感する1年となりました。

授業内容は実にバラエティに富んでいます。世界のお米を使った外国料理の調理実習では、生徒が異国の味を実際に作り、食することで文化の違いを五感で体感しました。在住外国人と直接交流するプランでは、言葉や文化の壁を超えた笑顔の触れ合いが生まれました。また、NGO講師による海外での異文化体験談は、遠い国のリアルな姿を伝え、子どもたちの視野を大きく広げました。参加校からは貴重な学びの場として高く評価されています。

今後もNGO団体や教育現場と連携し、未来を担う子どもたちに「世界とつながる力」を育ててまいります。

World なんしょん Now?

おかやましん たよ
~岡山人からの便り~

こんかい るーまにあ いなか かぞく
今回は、ルーマニアの田舎で家族や
どうぶつたちとの日常を大切にしつつ、異文
かこうりゆう しぜんと寄り添う暮らしを楽しむ
あるぶきょうこ
アルブ京子さんからの寄稿です。



あるぶきょうこ
アルブ京子さん

はじめまして。東欧のルーマニアに移住して5年目の
アルブ京子です。それ以前は、スイスのジュネーブに7
年、フランスのパリに20年住んでいましたが、コロナ禍
を機に夫の実家であるルーマニア南部に移住しました。
首都ブカレストから100kmのど田舎。てっきり過疎地
だと覚悟して来たのですが実際は、子どもや若者が多
いことに驚きました。子ども達が大学進学後、週末には
帰って来られる距離だからだと思えます。

現在、夫と義母の3人家族で
ますが、後ろ脚のない犬、盲目の黒
猫を含む4匹の猫とも暮らしてい
ます。



さくらは、4本足より
車椅子の方が速い。



こちらはルーマニア正教の国で
家族をととも大切にす文化です。
つまり、西欧ほどではないもの
にほんじんくら こじんしゆぎ そく
日本人と比べると個人主義な側
めんもありますが、家族に何か問題
が起これると一致団結して助ける
というスタンスなのです。

移住前、義母との同居は心配
でしたが、私の自由を尊重してく
れ、のびのびと暮らしています。こ
ちらでは自然農をしたかったので
すが義母は「お花が命」なので邪
魔をしないことにしました。とはい
え、古い家なの



左から、てって、茶々、そしてママのちろ。
3匹とも優しくお利口さんです。

で直すところもた
くさんあり、井戸
を掘ったり、屋根
にソーラーパネ
ルを設置したり、
さまざまな家具を手
作りしたりであっ
という間に5年が過ぎました。

隣国ウクライナ戦争の影響で電気代がフランス並
に上がりソーラーパネルは必須です。国からの補助も
あり、ご近所さんたちも進んで設置しています。雪が積
もっても、その反射光でもしっかりと発電するので驚い
ています。エネルギーが安価になることは本当に重要
ですね。

ルーマニアは黒土地帯で、野菜の国として知られてい
ます。庭での栽培には肥料が全く必要なく、もちろん無
農薬で育ちます。ルーマニアは「晴れの国」ですが時々
嵐が来ます。その時は庭が池のようになってどうなるん
だろうと心配ですが、あっという間に水が引きます。つ
まり、黒土は大変水捌けがよく、しかし必要な水分は
保っている土なのです。

最近、日本からブカレスト大学の医学部に留学中の
若者たちと出会いました。その中に、なんと岡山からの
留学生もいました。英語のコースがあり外国人たちと混
じって勉強しているそうです。SNSでグループを作り、遠
い国での困りごとの相談や料理のコツなど、情報交換
しています。こちらでの生活を楽しんでいただけたらうれ
しいです。そして、異文化を学びつつ勉学に勤しむ学生
さん達と一緒に私も成長したいと思えます。

そんなルーマニアの日常や文化を、またご紹介する
機会がありますように。

ルーマニア移住日記/Vie en Roumanie
<https://www.youtube.com/@vievenroumanie9502>



家の裏は広大な野原です。牛や馬、羊、
ヤギの群れが草を食べに来ます。



庭の薔薇と百合、義母の生きがい



わたし たいしゅっしん おかやま す ねん ねん がつ つうやく ほんやく がいこくしょうかい
私はタイ出身で、岡山に住んで7年になります。2024年8月に通訳・翻訳と外国紹介
と協会サポーターにボランティア登録しました。2025年8月には和気町で、ロイクラトン
祭りをテーマにしたインタビュー形式の対談イベントに参加し、タイの文化を紹介しました。
さらに12月には、「留学生と県民との交流会」にボランティアとして参加しました。

これまでは参加者として出席していましたが、今回はタイの民族衣装を着て、講師とし
てタイの文化を紹介しました。各国の方のプレゼンテーションを見たり、ミャンマー料理や
ベトナムのお菓子を味わったりと、貴重な交流の時間を過ごしました。子どもから高齢



留学生と県民との交流会の様子

の方まで幅広く交流でき、とても楽しかっ
たです。現在は日本語でのコミュニケーションができるようになり、これ
まで支えてもらう立場から、今度は自分の経験や文化の違いを伝える
立場として、地域の皆さんと関わっていきたく考えています。人が笑
顔になり、笑い合える瞬間がとても好きです。これからも積極的に活動
に参加していきたいと思います。

つく 作ってみよう！ 世界のレシピ

れしび紹介者：
パビィ・リリヤさん
(ウクライナ出身)



うくらいな かていりょうり ばれーにき ウクライナの家庭料理「バレーニキ」 (じゃがいもとチーズ入り)

ウクライナの代表的な家庭料理、「バレーニキ」を紹介します。
バレーニキは、小麦粉の生地で具を包んでゆでる料理で、家族が集ま
るときや週末によく作られます。具材は地域や季節によってさまざまで
すが、じゃがいもとチーズの組み合わせは、多くの家庭で親しまれてい
る定番の味です。バターやサワークリームとよく合い素朴でやさしい味
わいが特徴です。ぜひ、ウクライナの家庭の味を試してみてください。



さいりょう 材料 (2~3人分)

●〈生地〉

- 小麦粉 …………… 300g
- ぬるま湯 …… 約150ml
- 塩 …………… 小さじ1/2

●〈具〉

- じゃがいも …………… 中3個
- カッテージチーズ(またはリコッタチーズ)
…………… 150g
- 玉ねぎ …………… 1/2個
- 塩・こしょう …………… 少々

●〈仕上げ〉

- バター …………… 適量
- サワークリーム(またはプレーンヨーグルト)
…………… お好みで



つく 作り方

- 生地を作る: ポウルに小麦粉と塩を入れ、少しずつぬるま湯を加えてこねる。なめらかになったらラップをし、30分ほど休ませる。
- 具を作る: じゃがいもはゆでてつぶす。玉ねぎをみじん切りにし、フライパンで軽く炒める。じゃがいも、チーズ、玉ねぎを混ぜ、塩・こしょうで味を調える。
- 包む: 生地を薄くのばし、丸く抜く。中央に具をのせ、半月型にしてしっかりと閉じる。
- ゆでる: たっぶりの湯でバレーニキをゆでる。浮き上がってから2~3分で、取り出す。
- 仕上げ: 水気を切り、バターをからめる。お好みでサワークリームを添えて完成。



わんぼいんと ワンポイント

- くせの少ないチーズを使うと食べやすくなります。
- 家族みんなで一緒に包むのが、ウクライナの伝統的な作り方です。



JICA 寄稿

今回は、JICA海外協力隊の小学校教諭隊員として2008年から2010年までパラオに派遣され、帰国後はJICAのイベントや国際交流に関わっている延原理衣さんからの近況報告です。

皆さん、こんにちは！
延原理衣と申します。

中学生の頃、英語の授業で外国の文化や暮らしを知ったことが、私が海外に興味を持ったきっかけでした。

「世界にはどんな人がいるのだろう」

その思いはやがてJICA海外協力隊への参加につながり、現地の小学生に算数や体育を教えながら多くの人と出会い、学びを得ることができました。

帰国後は、子育ての毎日でなかなか外国へ行くことはできませんが、岡山県内で行われる国際イベントのお

手伝いを通して、様々な国の方と交流する機会に恵まれています。

最近では子どもと一緒にボランティアに参加することも増えました。様々な国の人と出会い、違いを知り、一緒に楽しむ経験は、子どもたちの心に「世界は広くて楽しい」という気持ちを育ててくれているように感じます。

国際交流は特別なことではなく、地域の中で誰でも始められるものです。身近な一歩から、つながりの輪を広げていけたらと思います。



奈義町でのJICAブースに参加する子どもたち



JICAのイベントで海外の布とことわざを紹介した、しおりづくりを手伝いました！



パラオ活動時の写真

地域日本語教育だより

新しい地域日本語教育コーディネーターのご紹介

2025年9月、岡山県地域日本語教育コーディネーターに新たに重井 節子氏、中原 由貴氏が仲間入りし、赤磐市でのモデル事業を中心に活動しています。



重井 節子コーディネーター

今年度は赤磐市や吉備中央町で教室運営のお手伝いをしながら、サポーター研修に参加しました。コーディネーターの活動を通して、新たな出会いや多くの学びがあり、やりがいのある1年でした。日本語教室では学習者の知りたいことや困りごとに対して、サポーターの皆さんがマンツーマンで対応してくださり、いつも温かい気持ちと笑顔があふれています。このような相互交流の輪が地域全体に広がるようこれからも活動を続けていきたいです。

中原 由貴コーディネーター

赤磐市に移り住んで3年になりますが、なかなか地域に住んでいる方とのつながりを持っていません。日本語教室に関わるようになって初めて、「ただ見かけるだけだった外国の方」とおしゃべりしたり、サポーターの方の話を聞いたりする中で、赤磐市内でも国際化がじわっと広がってきているのを実感しました。「楽しい」「今日も新しいことを知った」という参加者の声を聞いて、この町で次は何ができるかなとあれこれ考えています。



「あかいわにほんご教室」は、2026年も楽しい教室づくりをめざします。



茶話会も大盛り上がり



地域ならではの話題がいっぱい



令和8年度語学講座

問合せ

企画情報課

日本語講座

- 毎週火曜日から土曜日まで日本語講座を実施しています。
- とき 火曜日:10:00~11:40/18:30~20:10
水曜日:10:00~11:40/18:30~20:10
木曜日:10:00~11:40
金曜日:10:00~11:40
土曜日:15:10~16:50
 - ところ 岡山国際交流センター 6階 会議室
 - 受講料 無料(ただし、ジャパニーズクラス(会費2,000円)に入室が必要)
 - 定員 入門~中級 各講座25名
 - その他 1人2講座まで(希望に沿えないこともあります。)
 - 申込み 企画情報課

インドネシア語講座

- インドネシア語は日本人にとって発音しやすく、覚えやすい言語です。インドネシア人の先生と楽しく学びませんか。見学は無料ですのでお気軽にご参加ください。
- とき 初級:土曜日 13:00~14:45
中級:日曜日 13:00~14:45
 - ところ 初級・中級クラス 岡山国際交流センター 6階 語学室
 - 講師 インドネシア出身留学生
 - 受講料 15,000円(1年間 全42回、テキスト代別 協会会員費2,000円別途)
 - 定員 各クラス15名 ●共催 岡山インドネシア友好協会
 - 申込み 岡山インドネシア友好協会 岡田氏
TEL:090-9731-1825

韓国語講座

- レベル別に4クラスあります。韓国出身の講師が丁寧に教えます。韓国文化、語学に興味がある方、一緒に楽しく学びましょう。
- とき 入門:第2・4金曜日 初級:第1・3金曜日
中級:第2・4水曜日 会話:第1・3水曜日
18:30~19:40(日程は変更することがあります)
 - ところ 岡山国際交流センター4階 図書資料室
 - 講師 金良禧氏、金允姫氏
 - 受講料 協会会員 8,000円、協会会員以外 10,000円(全20回、テキスト代別)
 - 定員 各クラス20名(要申込み) ●申込み 企画情報課

中国語講座

- 前期4月、後期10月開始の講座です。中国出身の講師がレベル別に教えます。各クラス無料で1回見学ができます。
- とき 土曜日:上級A 10:00~11:30 入門 17:40~19:10
初級 19:20~20:50
日曜日:中級 17:00~18:30 上級B 10:00~11:30
※上級A、Bは同じレベルです。
 - ところ 岡山国際交流センター 6階 語学室
 - 講師 中国出身留学生
 - 受講料 協会会員 18,000円、協会会員以外 21,000円、高校生以下 16,000円(半期6か月 21回、テキスト代別 2クラス以上受講時5,000円割引)
 - 定員 各クラス 20名 ※各級年度途中の申込可能
 - 共催 岡山県華僑華人総会
 - 申込み 岡山県華僑華人総会事務局
TEL:086-201-1076(月~金 10:00~17:00)

かいほうし あんけーと ねが こんご さんこう きょうりょく ねが
会報誌アンケートのお願い 今後の参考にさせていただくため、ご協力をお願いします。

はろーきていーてん か きてい か けんりつびじゅつかんかいさい
『Hello Kitty展 -わたしが変わるとキティも変わる-』(県立美術館開催)
ペアチケットを5名様にプレゼント!

令和8年4月2日(木)までにアンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名の方に、岡山県立美術館で開催される標記展覧会(会期:令和8年3月19日(木曜日)~5月10日(日曜日))のペアチケットをお送りします。発表は発送をもって代えさせていただきます。

Hello Kitty展 -わたしが変わるとキティも変わる- ●会期 令和8年3月19日(木曜日)から5月10日(日曜日)
 ハローキティは誕生から半世紀を迎え今や世界中で知られ、愛されています。世の中を見渡しても稀な存在と言えるでしょう。なぜそのようになり得たのでしょうか?そのヒントは、実はファン一人ひとりとの関係性にあったのです。
 本展ではハローキティの展示史上最大量のグッズ展示をはじめ、個性あふれるアーティストとのコラボ作品、オリジナル映像コンテンツなど様々なコーナーでそのユニークさを紐解きます。楽しいフォトスポットも盛りだくさん!ぜひ皆様でご来場ください。

© 2026 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. SP660007



アンケート受付フォーム



会員募集

一般財団法人岡山県国際交流協会では会員を募集しています。

☆会員の特典

- 会報誌「おかやま国際交流」による国際交流情報の提供(年4回)
- メールマガジンの配信(月1回)
- 協会主催事業への参加費割引(団体会員は1団体2名までを割引)
- 入会時に記念品をプレゼント

☆年会費

個人会員: 2,000円 団体会員:10,000円
 賛助会員:30,000円

☆申込み・問合せ 総務課まで

TEL:086-256-2000 ※9:00~17:30(月~土曜日)
 E-mail: kokusai@opief.or.jp

最新情報は、当協会のホームページやFacebook、X(旧Twitter)等で随時お知らせします。



一般財団法人 岡山県国際交流協会 企画情報課

問合せ ☎086-256-2914 (月~土 9:00~17:00)
 総務課 ☎086-256-2000 (月~土 9:00~17:30)

会議室等の予約 受付管理班 ☎086-256-2905(9:00~17:30)
 [休館日] 12月29日~1月3日及び臨時休館日(ただし日曜日は貸室業務以外休み)

■編集・発行

〒700-0026 岡山市北区奉還町2-2-1
 岡山国際交流センター内 一般財団法人 岡山県国際交流協会
 ☎086-256-2000(月~土 9:00~17:30)
 ☎086-256-2226
 ホームページ: <https://www.opief.or.jp>
 Facebook: <https://www.facebook.com/coolopief/>
 X(旧Twitter): https://twitter.com/opief_okayama
 Instagram: https://www.instagram.com/opief_okayama/
 E-mail: kokusai@opief.or.jp